

杉山ゆきお後援会だより

第 21 号

http://fussa-net.gloomy.jp

平成25年9月吉日

編集発行者：森山 茂



杉山議員

福生市議会報告

杉山議員の6月定例議会の一般質問項目(コラムに示す)は、産業・医療・教育分野の極めて社会性の強いテーマを取り上げました。質問前に入念な調査と情報収集を基に、国が法律で進める行政施策について、福生市がそれをどう受け止め、どう運用しようとしているのか、「行政」のチェック機能としての「議会」の立場から密度の濃い一般質問になりました。

「小型家電リサイクル法」施行 小型家電収集の現状は？

杉山 本年4月1日より、通称

「小型家電リサイクル法」が施行されている。携帯電話やデジタルカメラなど使用済み小型電子機器に含まれている多くの金や銅などの有用な金属は約27・9万トン、金額で約844億円分にも上ると言われており、これだけの金鉱が眠っていることから「都市鉱山」などの言葉が生まれている。この「小型家電リサイクル法」は、市町村などが



回収した使用済み小型電子機器等を、国に認定された適正事業者がリサイクルを行う法律で、対象品目や回収方法は、自治体によって異なる。この小型家電リサイクル法の施行が、私たちの生活

にどのように影響があるのか、福生市のこれまで取り組んできた小型家電収集の状況についてお伺いしたい。

この状況を踏まえ福生市では「清掃だより」などで携帯電話やパソコンなど、レアメタルのリサイクル等の周知を図り、環境課ごみ対策係窓口での回収を実施している。また、一辺が50センチ未満の小型使用済み家電は不燃物として回収して、使用済み小型電子機器等を選別するピックアップ回収方式を試験的に実施している。さらに環境フェスタ等の会場で小型家電の無料回収を行った。

杉山議員の一般質問項目

- 1 小型家電リサイクル法の施行に伴う対応について
 - (1)使用済み小型家電収集のこれまでの取り組みについて
 - (2)レアメタル資源化への取り組みについての進捗について
 - (3)これからの取り組みと課題について
- 2 子宮頸がん予防ワクチンについて
 - (1)実施状況について
 - (2)副作用について
- 3 全国学力テストについて
 - (1)実施経過と状況について
 - (2)結果の取り扱いと公開について

杉山ゆきお後援会からの 重要なお知らせ！！

今秋、10月、杉山ゆきお後援会主催の「日帰りバス研修旅行」を行います。
国会議事堂内見学・井上信治副大臣激励をメインに、新装の歌舞伎座プラザ見学、東京湾クルーズなど企画、続報をお楽しみに。

いわゆる小型家電リサイクル法が公布された平成24年8月10日以降は小型家電のリサイクルについて関心の高い市民の方が環境課ごみ対策係窓口ビデオカメラなどの使用済み小型家電を届けてくださるケースも増えてきている。

レアメタル資源化に向けての方策は？

杉山 小型電子機器等に含まれているレアメタルを国を挙げて回収しようとしている今、国の方針に従って事業展開していくことも自治体には求められている。自治体ができるのは、分別収集や認定業者への引き渡し、市民への周知・PRなどである。こうした動きの中で、我が市はレアメタル資源化に向けてどのような取り組みを考えているのか伺いたい。

市長 レアメタル資源化への取り組みは「清掃だより」等で携帯電話やパソコンなどレアメタルのリサイクルに対する意識の醸成に努めている。

特に1製品当たりのレアメタルの使用量が大きい携帯電話は携帯電話各社が専用回収ボックスを設置し、使用済みの携帯電話を、無償で回収する「モバイル・リサイクル・ネットワーク」という仕組みや、環境課ごみ対策係窓口で使用済み小型電子機器等回収を実施していることを広く市民に周知している。また、従来的一般廃棄物から、レアメタルを多く含む使用済み小型電子機器等を選別し、回収している。小型家電リサイクル法が施行されたことを踏まえて、一步一步ではあるが、レアメタルの資源化、資源の再利用の促進とごみ減量につなげていくために、現行のピックアップ回収方式とごみ対策係窓口回収により、使用済み小型家電の収集に取り組みんでいきたい。

現在の回収方法で目に見える成果は？

杉山 これからの取り組みと課題について伺いたい。使用済み小型家電の回収については、ピッ

クアップ回収と環境課ごみ対策係窓口回収で対応していくとのことだが、この回収方法で、目に見える成果は出るのだろうか？ 小型家電を積極的に回収しようとする、現在行っている拠点収集、特に公共施設などを中心に行わないと、それほど効果は期待できないのではないか。この拠点収集は現在見直しの検討がなされているということも理解している。拠点収集に依らない使用済み小型家電回収で効果を上げられるようにするにはどのようなことを検討すべきか伺いたい。

資源回収拠点は廃止。全てのゴミ・資源は個別収集に変更

市長 市町村が現行の分別収集体制に加えて実施する回収方式としては、ボックス回収、ステーション回収、ピックアップ回収、集団回収、市民参加型回収などがあるが、八王子市のモデル事業では、公共施設等に専用回収ボックスを設置し回収

するボックス回収方式である。この方式の場合、現在実施している資源回収拠点が重要であることは議員御指摘のとおりである。しかしながら、資源回収拠点への不法投棄、有害ごみ量の増加等を踏まえて、福生市廃棄物減量等推進審議会の答申を受けて、資源回収拠点を廃止し、全てのごみ・資源を個別収集に変更するなどの方針が決定している。市としては、現在試験的に実施しているピックアップ回収、イベント回収、環境課ごみ対策係窓口回収を中心に、町会・自治会等の資源回収等における集団回収、市民参加型回収など、それらも視野に試行していく所存である。課題としては、携帯電話などの内部に保存・蓄積された個人情報、の問題、中間処理等があるが、国が目指す新たなリサイクル制度の動向を見ながら、適正かつ効果的なリサイクルの手法を検討し、福生市の使用済み小型家電回収のスキームを構築してまいりたいと考えている。

コラム

子宮頸がんワクチン

子宮は、女性にしかない特別な臓器のひとつです。この子宮の入り口付近「子宮頸部(しきゅうけいぶ)」にできるがんを、「子宮頸がん(しきゅうけいがん)」といいます。

子宮頸がんは原因やがんになる過程がほぼ解明されている予防ができるがんです。子宮頸がんの予防法としては、子宮頸がん予防ワクチンを接種することで、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を予防することが挙げられます

子宮頸がん予防ワクチンは、新しいワクチンなので、子宮頸がんそのものを予防する効果はまだ証明されていません。しかし、持続的なHPVの感染やがんになる過程の異常(異形成)を予防する効果は確認されており、引き続いて起こる子宮頸がんを予防する効果が期待されています。

子宮頸がん予防ワクチンに問題点はないのか

杉山 子宮頸がん予防ワクチン接種について福生市の対応状況を伺いたい。先の国会で子宮頸がん予防ワクチンを定期接種化する予防接種法が改正され、4月1日から原則無料となった。しかしながら、ワクチンをめぐるといろいろの問題点が指摘されている。子宮頸がんの原因であるヒトパピローマウイルス(HPV)については、根拠が不確かな情報、主張もあり、科学的な

データや知見を踏まえて、冷静な議論が必要だと感じている。

HPVワクチンの問題点を厚労省の資料、国会答弁で調べてみると、HPV予防ワクチンを接種した杉並区の女子中学生に重い副反応(副作用)が出てしびれや痛みは胸や体に広がり、発熱、嘔吐が続く、退院後もしびれなどのため車椅子状態とのことである。このほか厚労省に医療機関から報告があった副反応の件数は、1169件、そのうち入院など重篤な例は189件である。HPVワク

チンの副反応については定期接種を決めた厚生労働委員会での予防接種法の一部改定の議論の中で、HPVワクチンの副反応の問題などを指摘した上で定期接種は時期尚早ではないかという質疑になったが、法案は可決し、定期接種となった。数字の使い方を間違えると、違った意見も出てくるが、冷静な議論が必要であることは間違いない。このような状況の中で、福生市は自己負担1割で任意接種を実施してきた経緯や、それから市民の声の把握はどのようになっていくかお伺いしたい。

市長 子宮頸がん予防ワクチン接種は、子宮頸がんを引き起こすヒトパピローマウイルスに対し免疫を高めるために3回の接種を行うものである。平成23年4月1日から25年3月31日まで任意接種として、接種費用の約9割を助成してきたが、予防接種法が改正されたことにより、25年4月1日より定期接種として実施している。被接種者数は、定期接種後は把握できていないが、任意接種時の平成

23年度は386人、24年度は128人である。アンケート等はとっておらず、市民の声の把握は行っていない。任意接種を実施する前は、実施を望む電話が担当にたびたびあったものが任意接種後はなくなつたと聞いており、市民の御要望には沿っていたものと理解している。

HPVワクチンの副反応(副作用)

杉山 HPVワクチンの副作用についてと通告しているが、厚労省では「副反応」というふうに書いているので、副反応と読みかえる。副反応につきましては、多くの事例が厚労省のホームページに公開をされている。全国で起こっていることは、我が市でも起こり得ることである。こうした副反応についてどのような考えを持っているか、対応も含めてお伺いしたい。

市長 国の報告書によれば、子宮頸がんワクチンの主な副反応としては、局所の注射による痛みである疼痛、赤みである発赤、

腫れである腫脹であり、固有の重篤な全身性反応は少ないとされている。また、注射時の疼痛等に対する迷走神経反射によると考えられる失神が思春期女子に多く見られるため、十分な注意喚起が必要とのことであった。このことから市では、任意接種時には、ワクチンに関する説明文書を置き、万が一の接種直後の失神に伴うけがなどへの注意喚起に努めてきた。定期接種化された4月からは、ワクチンに関し、副反応を含む説明文を対象者全員に個別通知している。ワクチン接種で予防できるタイプである子宮頸がんは、若い世代の発症が多く、その症状が進んだ場合、命をなくしたり、子宮摘出につながる場合もある病気になる。保護や接種希望者が、接種に伴うリスクと、接種しないリスクをしんしゃくして、接種を判断していただけるよう、正しい客観的データや幅広い情報を市民の皆様にお伝えをしながら、今後もし子宮頸がん予防ワクチンの定期接種を実施してまいりたい。

定期接種は義務か？

杉山 市内で副反応の報告はあるか？ 任意接種と定期接種はどのように違うのか？ 定期接種は必ず受けなければならぬのか？ お聞きしたい。

福祉保健部長 副反応の発症に関する事案の報告はない。任意接種は、文字どおり接種者がその希望により接種を受けるもの。これに対しまして定期接種は、予防接種法に基づき、その実施と勧奨の義務が実施主体者にある。定期接種における市民の接種義務については、あくまでも受けるよう努めなければならぬという努力義務にとどまっております。接種を受けるか受けないかは、個人の判断で決めていただくということである。

編集者注

定期接種においては、その実施と勧奨(積極的に勧める)の義務があります。国は7月14日「積極的な勧奨は一時的に差し控える」と突然の方針変更。福生市もこれを受けて、ホームページに「接種を積極的にはお勧めしていません。」との言葉が加わっている。

全国学力テスト 福生市の状況は

杉山 4月に実施された、全国学力調査(学力テスト)は時系列で習熟度や子どもたちの学習実態を把握する上では、教育を担う指導者にとつて、大切なデータといえる。我が市も今までこの学力テストに参加をして、その結果を児童・生徒の指導に生かしてきたものと思っている。今回の学力テストについて、福生市の状況を伺いたい。

教育長 今年度の全国学力調査は、文部科学省で回収した調査結果を集計し、8月初旬には都道府県別の平均均正答率を公表することになっている(8月27日に公表)。その際、区市町村別や学校別でも集計をするが、これは各学校がみずからの学校において、その活用を図ることを目的としているため、データの提供を受けた各教育委員会が、個別の市町村名や学校名を公表することは規制されている。児童・生徒の学力の問題は、

教科の調査の結果だけではなく、児童・生徒の成長過程での安定的な情緒の形成や学習習慣、生活習慣等と絡み合った結果と受けとめており、その対策も徐々に打っているところでもある。引き続き取り組みに改善策を図り、努めてまいっている所存である。

学力テストの公表は？

杉山 学力テスト結果は、知・徳・体力の一部と理解しており、保護者や市民に公表することで、市民ぐるみで教育を考える機会になると思う。総体的な結果公表と対応、公開についてお伺いしたい。

教育長 調査結果の取り扱いについては、学校間の序列化や過度な競争にならないよう十分配慮することが示されており、個々の学校名の公表等は行わないようになってきている。総体的には、本市小・中学校とも、正答率、各教科平均値のデータを見る限り、若干の上向き傾向にあるという認識に立っているということをご理解を賜りたい。